

刈谷市女性の会各地区の会長・会員を対象に開催しました、今年度の行事をご報告いたします。

県内研修会 5月15日(水)

女性の会21名(本部役員5名、地区会長16名)が参加し、研修と親睦を目的に大府防災センターと有松絞り会館に行ってきました。



大府防災センターで防災体験&防災学習

東海豪雨時の被害説明を聞いた後、水害と地震発生時のビデオを視聴しました。水害体験では、「水没した車内からドアを開けられるか?」と、段差のあるボールプールで「水没した道路を安全に移動できるか?」を体験しました。地震体験では、震度5の揺れを目の当たりにし、改めて地震の恐怖と防災の重要性を実感しました。



有松絞り会館で手ぬぐい絞り体験

職人の方から生地への折り方や染め方の指導を受け、実際に染色までの体験をしました。参加者は思い思いに折り方や色柄を決め、個性豊かな作品が出来上がっていました。

移動の車内でも絵しりとりや防災ビンゴを行うなど、1日笑顔で楽しんで来ました。研修での貴重な体験を今後の生活に生かしていきたいと思っております。



自主講座 6月5日(水)

段ボールコンポストってなあに



講師：ナチュラル・リターンクラブ 武田生子氏

刈谷市女性の会の継続事業である段ボールコンポストについて、武田先生他2名の講師の方たちに、環境への有用性や仕組みを分かりやすく教えていただきました。自宅で生ゴミから堆肥を作ること、循環生活の実践に取り組んでいます。



6月実績(23人分) 生ゴミ投入量 94kg CO2削減量32kg
7月実績(23人分) 生ゴミ投入量100kg CO2削減量35kg
8月実績(23人分) 生ゴミ投入量106kg CO2削減量37kg

女性リーダー研修会 7月3日(水)

能登半島地震に係る日本赤十字社の対応について

講師：日本赤十字社 愛知県支部 救護・講習課長 菊池勇人氏

令和6年に発生した能登半島地震では、半島の地理的制約と道路の寸断、加えて大雪もあり、必要な物資や支援が行き届かない状況が続いたそうです。

日本赤十字社では全国各地から順番に現地に入り、派遣時期によって「医療救護活動」から被災者や行政職員に寄り添う「こころのケア活動」に内容を移行しながら支援を行ったそうです。また、現地の赤十字ボランティアによる「炊き出し」「救護物資の搬送」などによる被災者の日常を取り戻すための支援も大きな力になったそうです。



減災・復旧・復興には、平時から災害に備えた講習会等によるボランティアの災害対応能力の向上、発災時に迅速に計画的に活動できる組織力が欠かせないのだと思いました。

令和6年度『女性の会』では、本部役員を中心に全体での活動の他、各地区会長が生活文化委員会とレクリエーション委員会の2つの委員会に分かれ、それぞれの役割を分担した活動も行っております。他地区との交流により、より良い地域活動をめざしております。

【刈谷市女性の会連絡協議会】
ホームページも是非
ご覧ください
<https://kariyashijyoseinokai.com/>



～編集後記～

『女性の会』では防災の体験学習を通じて、日常生活の備えから地域での訓練の重要性まで、個々の防災意識が向上しました。